



令和5年度「全国・学力学習状況調査」及び「県基礎学力調査」の結果について

令和5年度「全国・学力学習状況調査」及び「県基礎学力調査」が4月に3年生を対象に行われ、国県から本校の結果が返ってきましたので、その概要と今後の学力向上の取組方針をお知らせします。学校教育と家庭教育の力を合わせ、生徒の学力向上に結び付けましょう。

1 本校の結果の概要

(1) 教科に関する調査

全国学力・学習状況調査の本校の平均正答率は、国語が県をやや下回り、全国と同程度でした。数学と英語が県と同程度で、全国をやや上回りました。県基礎学力調査の本校の平均正答率は、社会が県をやや上回り、理科が県をやや下回りました。まとめると、県平均並みの結果と言えます。

教科	全国学力・学習状況調査			県基礎学力調査	
	国語	数学	英語	社会	理科
全国平均との比較	—	△	△	△	△
県平均との比較	▼	—	—	△	▼

【指標】 本校平均を全国平均・県平均と比較し、市教委の公表に準じて次の5段階で示します。

△△…5ポイント以上高い(上回る) △…2ポイント以上5ポイント未満高い(やや上回る)

— …2ポイント未満の差(同程度)

▼▼…5ポイント以上低い(下回る) ▼…2ポイント以上5ポイント未満低い(やや下回る)

(2) 質問紙調査結果(紙面の関係上、県との差が認められる主なものを簡略化して紹介します。)

①肯定的な回答が県平均を上回った主な項目

- ・1、2年生のときに受けた授業で、タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか
- ・英語の勉強は好きですか (↑ほぼ毎日と週3日以上を合わせた割合)
- ・1、2年生の授業では、英語を聞いて概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか
- ・原稿の準備なく、(即興で)考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていましたか
- ・スピーチやプレゼンテーション、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていましたか
- ・生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか

②肯定的な回答が県平均を下回った主な項目

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)
- ・読書は好きですか
- ・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか
- ・1、2年生の授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- ・1、2年生のときの授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
- ・国語の勉強は好きですか
- ・国語の授業の内容はよく分かりますか
- ・数学の授業の内容はよく分かりますか

2 本校の今後の学力向上の取組方針

(1) 個に応じた指導、個別最適な学びの充実

- ・授業のまとめを自分の言葉で書く場面においては、自分で書けない生徒への個に応じた指導を継続します。加えて、様々な考えや意見に触れる良さが伝わるように授業を工夫します。
- ・ICT 機器を有効に活用し、自分に合った学び方や教材を選ぶことができる授業づくりを行うとともに、生徒一人一人が成長を確かめられる授業づくりを行います。
- ・学校では、課題の解決に向けて自分で考えて取り組む活動を重視しますので、家庭では、規則正しい生活習慣や、読書習慣、自分の長所を伸ばし弱点を補う計画的な学習にご協力ください。

(2) カリキュラム（教育課程）の更なる改善

- ・調査結果を活用して学校の実態を把握し、カリキュラム改善を行います。知識や技能が生きて働き、思考・判断・表現力を育むために活用する力が教科を超えて高まるよう努めます。
- ・学びを広げ深め高められるよう、「学びのイメージマップ」の生徒による活用を促しています。今後は、それを教師自身ももっと有効に活用して生徒が思考をつなげる授業づくりを行います。
- ・学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）をより一層活用しながら、外部人材の活用や体験的な活動を計画的に行い、生徒にとって学ぶ喜びのある授業づくりを進めます。

(3) 各教科等における指導法の工夫

- ・現3年生に対して、正答率が低かった問題を基にして学力の弱点補充に努めます。
- ・調査結果から明らかになった各教科の課題を解決するため、指導法の工夫を行い、現1・2年生も含め、授業改善を行います。紙面の都合上、以下のとおり、一部のみ紹介します。

【各教科の課題】

国語：語句の用法や叙述の仕方を考えて文章を整えること

問題の意図を正しく読み取り、条件を踏まえて適切に説明すること

数学：事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること

英語：文と文の関係を正確に読み取ること

社会：古代や中世の基礎・基本となる歴史的事象について理解すること

理科：基礎的な語句など、知識を定着させること

質量保存の法則をもとに化学変化前後の物質をモデルを用いて説明すること

【指導法の工夫】

国語：説明的な文章の単元で接続語の役割を押さえて文章を読み取る活動を工夫します。

二つの文章を読んで比較対照し、根拠を明確に示しながら説明する活動を設定します。

数学：関数の意味を理解し、数学用語を用いて説明させる問題解決的な学習の場を確保します。

英語：英文の概要や要点を読み取る場を確保しながら、正確に読み取る技能の定着も図ります。

社会：思考・判断・表現の場で活用させ、知識・技能が生きて働く授業づくりをします。

理科：ICT を活用して補充学習に取り組むなど、個別最適な学びが充実するようにします。

モデルを用いて説明する力が身に付くよう、モデルを用いて物質を表す活動を行います。

全般：ICT 機器の活用が進み、生徒同士で考えや意見を交流する「対話的な学び」は、進展が見られます。しかし交流するだけで終わったり、対話自体が目的となったりしないようにすることが大切です。そのため、教師がしっかり授業準備をし、生徒が学習を自分事として捉えて自分の学びを調整していく「主体的な学び」や、思考をつなげていき豊かに学ぶ「深い学び」の実現を目指して、教職員一同で精一杯取り組んでまいります。

布水中学校のホームページにも学校生活のようすを随時記載していますので、ぜひご覧ください。
学校への質問やご意見などがございましたら下記へどうぞ。

連絡先 076-248-0039 (担当 教頭 南・主幹 東方)

メール fusuityul@ed.city.nonoichi.ishikawa.jp